



# ふたばっこだよい

2024・2・15

No.19

## スエTの科学の時間



今回のテーマは、『水には何か溶けているかも！？』『魚ってどうやって息をしているんだろう？』でした。まずは、『水には何か溶けているかも！？』ということで、水は水でも、海水・ミネラルウォーター・砂糖水にはそれぞれ違うものが溶けているねと話しました。「飲んだことある」「海水ってしょっぱいから塩が混ざってるねんで！」といろんな意見が出ていました。

精製水にストローをさしブクブクすると空気が溶けることを聞き、紫芋の汁を混ぜて作った薄紫色の水に空気を溶かすと色が変わるか実験をしました。5分ほど息を入れ続けると、初めの紫の色よりも少し赤っぽく変化しました。いろんな角度で観察して、「え～なんで！？」「すごい！」と不思議を実感していました。色が変化するのは、吐く息の二酸化炭素が溶けたからだそうですよ。



『魚ってどうやって息をしているんだろう？』という話では、かめやクジラ、イルカなどは時々海から出て息継ぎをするけど、魚は水の中でしか息ができないよねと聞くと、「確かに！」「メダカが水の中から出てくるの見たことない！」と、はっとした様子の子どもたちでした。職員室にある大きな金魚を見ながら、パクパクしているときに水中に溶けている酸素を取り込んで息をしていると教えてもらいました。「お腹ぱんぱんになるんじゃない！？」とスエTに聞くと、「エラから水を吐いて



はじめの水

ブクブクした水

ているからお腹はパンパンにならないんだよ」とも教えてもらいました。

科学の時間が終わってからも水槽を眺めて、「今息吸ってる！」と嬉しそうに話をしていました。色の変化や身近にいる生き物の不思議に気づき、新しい発見に胸をときめかせていた子どもたちでした。